

目的 適合度の高い胸上部原型を作成することを目的として、身体計測値と、採取したレプリカの体表面積、および、レプリカの平面展開図より、身体を覆うに必要な大きさと形態の把握を行った。次に、身体と衣服の図形の共通性をとらえるために、レプリカの平面展開図を分割し、展開部位を接合させて原型状に修整したものと、胸上部原型の仮めい・試着・補正したものについて比較し、以上より衣服の形態適合度を検討し、胸上部原型について考察を試みる。

方法 資料は、19～22歳までの青年女子54名についての身体計測原票と、同一個体についてのレプリカの体表面積、平面展開図、並に、文化式胸上部原型の仮めい・試着・補正したもの（1976年に計測、採取）である。レプリカの展開図を原型状に修整した体表面近似展開図より19項目、「原型」より54項目の計測を行い、そのそれぞれ値と身体計測値59項目の平均値、標準偏差、相関を求めた。「原型」と体表面近似展開図を前後正中線、頸基点、頸窩点を基準として、同一紙面上に転写して検討した。

結果 ①胸部体表面積の平均値は 2605.45cm^2 、体表面積と相関の高い項目は乳頭圍胸圍であった。②体表面積の前面後面の比率の平均値は48:52で、前面面積の比率の小さいものは、屈身の傾向があった。③体表面積の前後の比率と、体表面近似展開図の乳頭圍胸圍の前後差との関係は、前面面積の大きいものほど前後の差が多い傾向を示した。④胸部前面後面の面積と、平面展開図を原型状に修整して得た形態の関係を検討したところ、前後面の面積が同じで乳頭圍胸圍が大きいものは、前面の脇線、胸圍線がカーブしている。